

# KCGの学科再編とインストラクショナル・デザイン

京都情報大学院大学 准教授

江見 圭司

## 1. はじめに

### 1.1. インストラクショナル・デザインとは

京都コンピュータ学院および京都情報大学院大学では、全学的に本格的な e ラーニング授業を実施している。e ラーニングコンテンツを作成する際にはそれ独特のインストラクショナル・デザインが必要である。本学の教職員は、メディア教育開発センター主催のインストラクショナル・デザイン入門セミナーや同ワークショップに参加するなどして、多方面からより良い方策を検討し続けている。

インストラクショナル・デザインとは e ラーニングに限ったものではなく、授業全体をどのように設計するのかということを意味する。ニーズ分析を行い、どのような内容のものをどのように教えるのかを明らかにすることからインストラクショナル・デザインが始まる。まず大切なのはニーズ分析である [1]。これは受講生が何を理解したいかを理解し、受講して得られる結果が社会のニーズに合致しているかを検証して、受講生の前提知識なども含めて、総合的に分析することである。その後、その内容をなぜ受講する必要があるのか(学習に対する態度, Attitude)、どのようなスキル(Skill)が必要なのか、どのような知識(Knowledge)を身につける必要があるのかに分類して [2] 学習項目を作成していく。インストラクショナル・デザインに関しては様々な理論があるが、詳細は各文献を参照されたい [3][4]。

京都情報大学院大学が開学して以来、本学は専門課程の1回生から修士課程2回生まで6学年を擁する高等教育機関になった。そして上述の e ラーニング独特のインストラクショナル・デザインの必要性を踏まえて、本学独自のものを確立するためには、従来のフェイス・トゥ・フェイスの授業におけるインストラクショナル・デザインの再検討も必要となる。そして、それらは必然的に、総合的な学科再編に至るカリキュラム改革の一大プロジェクトと連動して展開していった。

### 1.2. 京都コンピュータ学院の45年

京都コンピュータ学院(KCG)は1963年に、日本最初の民間のコンピュータ教育機関として創立して以来、3万7千人以上におよぶ卒業生を輩出し、産業界において高い評価を得てきた。創立者は今から45年前に情報化社会の到来を予見していた。そして本学には、開学以来、常に創立者由来のパイオニアスピリットを持って教育活動を行ってきたという伝統と実績がある。

2004年には、京都コンピュータ学院が母体となって日本最初

のIT専門職大学院である京都情報大学院大学が開学した。その後、法改正によって2006年3月卒業生から、京都コンピュータ学院4年課程である情報工学科と情報学科を修了すると高度専門士号を取得できるようになった。高度専門士は、日本のすべての大学院への入学資格やその他の国家資格要件、就職後の給与・待遇面でも従来の四年制大学卒業生(学士)と同等である。これにより、専修学校京都コンピュータ学院が京都情報大学院大学の事実上の学部課程になったのである。

2008年に創立45年を迎えるに当たって、単なる「知識・技術の伝授」を超えた、本学建学の理念である「時代を担う創造性豊かな情報処理技術者の育成」をさらに高度に達成するために、1年課程、2年課程、3年課程、4年課程、そして大学院修士課程のそれぞれの修了時での到達目標と各学科・課程のコンセプトを明らかにすることが重要となり、加えて、e ラーニングの出現によってインストラクショナル・デザインの高度化を実現する必要性があるという判断から、学科再編を行うプロジェクトが立ち上がったのである。

プロジェクトでは、まずメンバーが関連文献を大量に読むことから始めた。教育学分野の各種専門書や論文はもちろんのこと、周辺分野の批評や企業の声なども参考にした。批評などの中で、R.P.ドーアの「学歴社会 新しい文明病」[5]は、学歴とは何かということ、別の側面から考察するには興味深い論評であった。また、早稲田大学の大槻義彦教授の「文科系が国を滅ぼす—この国の明日に希望はあるか」[6]には、文科系エリートたち(実は東大法学部のこと)が支配するこの国が滅びつつあるのは、大学教育に責任があると書かれており、真の文科系エリートを育てる新しい大学体制が提案されていて興味深かった。さらに、最高学府であるはずの大学に関する問題点を指摘している石渡 嶺司 [7] などに至っては、大学業界の裏話が多くて、考えさせられる内容であった。教育学上の専門に偏らず、周辺の批評にまで及んだ読書を通じて、幅広い視野を得ることができたと思っている。これら周辺の書籍は一般書なので、大学の現状を知るためには一読をお勧めしたい。

また、「専門学校」と「専修学校」、そして「大学」の歴史的由来に関しても再度検証した [8]。変化の激しい情報技術の分野で、学科開設に時間のかかる現行制度下の大学では人材育成はおぼつかないことはいままでもない。この点に関しては、新規分野に容易にチャレンジできる専修学校の方が優位性を有している。制